

テ-9

## イメージトレーニングがピアノ初学者に及ぼす効果についての研究①

戸川晃子

本研究の目的は、保育士・教員養成校のピアノ初学者がイメージトレーニングで曲を練習した場合の効果を検討することである。

研究方法は以下の通りである。まず、被験者はあらかじめ本研究者が選定した実験曲を初見演奏する。次に、「実際にピアノを弾いて練習」または「イメージトレーニングで練習」を3分間行い、再度演奏する。被験者による演奏は、すべてデジタル録音する。最後に、この録音データを検証し、「初見演奏」と「実際にピアノを弾いて練習」した場合または「イメージトレーニングで練習」した場合の演奏技術の向上度合いを比較する。なお、被験者は本研究への協力に同意した本学幼児教育学科の学生（2年次生）である。

その結果、「実際にピアノを弾いて練習」した場合ほどの効果はないが、「イメージトレーニングで練習」した場合も、ほとんどの被験者に演奏技術の向上が見られた。すなわち、ピアノの専門教育を受けていない保育士・教員養成校の学生において、イメージトレーニングの有効性が確認できたわけである。

今後の課題として、被験者の数を増やし再度実験を試みて研究結果の信頼性を高めるとともに、イメージトレーニングを有効に取り入れた教授法の開発に視点を置いた研究が必要であると考えている。

テ-10

## 歯科衛生士の要介護者口腔機能管理に関する意識調査

澤田 美佐緒

玉村 由紀, 御代出 三津子, 中田 直美

在宅療養要介護者にかかわる歯科衛生士の業務内容、多職種との連携の現状から、口腔ケアの普及に対する課題を検討するため、兵庫県内4市の開業歯科診療所に勤務し訪問業務を行う歯科衛生士にアンケート調査を実施した。19名〔常勤9名、非常勤10名〕の歯科衛生士より回答を得られた。調査の結果、研修会の受講者と未受講者で、業務内容、他職種とのかかわり方に差がみられた。研修会受講者は、約9割が本人の指導に加え介護者への指導を行い、半数が食事の観察を行っていたが、未受講者では介護者に指導を行っているのは約1割で、食事の観察を行う者はいなかった。また、多職種との連携に必要な介護支援専門員への連絡やサービス計画書の取り寄せ、他職種記録の確認などにおいても未受講者は、受講者より実施している者が少なかった。在宅要介護者が生活する環境は歯科診療所とは異なっており、要介護者に対する業務を充分に実施できる知識や技術は、学校教育のみでは不足していることが考えられた。そのため、他職種と連携して要介護高齢者に対する口腔ケアを普及させるには、卒後の研修が必要であると考えられる。